

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22242006

研究課題名(和文) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究

研究課題名(英文) Integrated Research on Paper and Handwriting Styles

研究代表者

島谷 弘幸 (SHIMATANI, HIROYUKI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・副館長

研究者番号：90170935

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,400,000円、(間接経費) 6,420,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では日本、中国、韓国に残る装飾料紙を使用した書の作品について、その書の特徴の詳細を調査・データ化するとともに、料紙の科学的分析を行なうことを目的としている。国内外の関連作品のデータ収集を基礎にして、作品調査を行い、さらに文学的・歴史的研究も進めてきた。それらの調査結果はデジタルデータで蓄積し、東京国立博物館で開催した特別展「和様の書」に活用しながら、研究成果報告書を作成し公開している。

研究成果の概要(英文)：This project dealt with examples of calligraphic works on decorative paper preserved in Japan, China, and Korea, to study the details of the calligraphy styles and to conduct scientific analysis of the decorative papers. Work investigation was conducted on the basis of the data collection of a related work in and out of Japan, and literary / historical research has also been advanced further. The research results are now accumulated in digital format, being beneficial to special exhibition activities "Wayo no sho" at Tokyo National Museum. A research report has been published for public use as well.

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：装飾料紙 書風 書跡 紙質 博物館

1. 研究開始当初の背景

東京国立博物館で開催した特別展「書の至宝 日本と中国」(平成 18 年)では、18 万あまりの人が来館し、書への関心を持つ人が増加する傾向にあった。しかし、あいかわらず書の鑑賞の方法がわからないという声も多かった。書の鑑賞のポイントとなる文字の美しさ(書の特徴)と書かれた紙の装飾(料紙装飾)、この 2 点を綿密に調査し分析することは書の理解や鑑賞を深めるのみならず、書道史の発展につながるものとして研究課題の中心にすえた。

すでに平成 19~21 年度、科学研究費補助金・基盤研究(B)「東アジアの書道史における料紙と書風の基礎的研究」の助成を受け、書(文字)の特徴の分析、料紙の科学的分析、などを各分担者・協力が者が担当する総勢 10 名のチームを立ち上げていた。本研究課題では、その基礎データをもとにさらに発展させて、調査対象を古筆(平安~鎌倉時代に主に和歌を書いた筆跡)から、古写経や書状などに広げ、調査内容も文学的・歴史的分析を行なうなど、総合的な調査分析を目指した。

2. 研究の目的

料紙に装飾がほどこされた古筆、写経(装飾経)を中心とする書の作品について、一字一字の書の特徴を調査するとともに、料紙装飾に関する科学的調査、書かれた内容に関する文学的・歴史的調査などを実施する。個別の作品を人文・自然諸科学の方法によって総合的に分析し、歴史的に位置付け、文化史的意義を明らかにすることを目的とする。

前研究課題で蓄積した古筆に関する基礎的データをもとに、本研究課題では、分割されて断簡となった古筆切の所在を調査するなど、歴史的社会的分析も実施し、総合的に把握することにつとめる。また、調査対象を追加し、写経(装飾経)や宸翰(天皇の書)なども調査を進める。以上の作品のうち、中国や韓国、アメリカ・ヨーロッパに所在のものについても、その所在を確認するとともに現地調査を実施する。

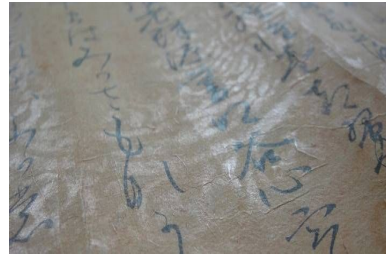
3. 研究の方法

まずは東京国立博物館や京都国立博物館、九州国立博物館が所蔵する対象作品の総合的調査を実施する。この三館については日頃の協力体制が整っており、調査によって取得した画像は、それぞれインターネット上で迅速に公開することができる。それと同時に、日本国内、海外にちらばる対象作品の所在を確認する。所在の確認できた作品から順次調査を行い、調査・分析結果をデータ化する。東京国立博物館が所蔵する写本・版本などの関連資料のデータ化とあわせて総合的に考察を行い、その成果を展覧会や出版物、インターネットで公開できるよう準備を進める。

4. 研究成果

装飾料紙を用いた古筆・写経を中心に、国内外に所在する対象作品リストを整備し、リストをもとに調査を進めた。

とくに東京国立博物館は数多くの関連作品を所蔵しており、本課題で対象となる装飾料紙作品のリストを作成し、作品調査と調査結果のデータ化を行なった。ほかに国内では、京都国立博物館、九州国立博物館、京都・陽明文庫、奈良・大和文華館、広島・ふくやま書道美術館、同・筆の里工房等へ出張し作品調査を行なった。許可の出た作品に関しては、東京国立博物館内部での調査と同様に、顕微鏡による料紙の拡大画像の撮影を行い、データの充実を図った。



(料紙の文様を確認するために、斜めより撮影)

海外ではアメリカ・クリーブランド美術館、同・ホノルル美術館、同・サンフランシスコアジア美術館、フランス・ギメ美術館、スイス・リートベルク博物館、中国・香港芸術館、同・銀雀山竹簡博物館、同・臨沂市博物館、同・鄒県博物館、同・山東省博物館、台湾・国立故宮博物院等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する調査を実施した。

以上の調査結果より得られた成果を、東京国立博物館において、総合文化展本館 3 室(仏教の美術、宮廷の美術)の展示(4 年間合計 78 回)や、特集陳列「写された書」(平成 24 年 5 月 22 日~6 月 24 日、於:本館特別 1 室)、特集陳列「和様の書 近現代篇」(平成 25 年 7 月 13 日~9 月 8 日、於:平成館企画展示室)でわかりやすく紹介した。また、本研究成果を基礎にして企画を行なった特別展「和様の書」(平成 25 年 7 月 13 日~9 月 8 日、於:東京国立博物館平成館特別展示室)では、装飾料紙が一覧できるようなパネル展示を行ない、特別展に関連する印刷物(図録『和様の書』平成 25 年 7 月発行)においても本研究成果を発表した。さらに、広島・筆の里工房で開催の特別展「よみがえる王朝のみやび」(平成 24 年 9 月 23 日~11 月 4 日)には特別協力として、本研究成果を図録や展示で公開した。

そのほか、東京国立博物館のホームページ「1089 ブログ」の「書を楽しむ」シリーズにおいて、成果を公開した(平成 23 年 10 月~平成 25 年 3 月、合計 34 回)。最終年度には、報告出版物として『料紙と書』(思文閣出版、平成 26 年 3 月発行)を作成し、調査によって得られた装飾料紙の画像集成と、研究代表者・研究分担者・研究協力者による個別研究

の成果を掲載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 29 件)

島谷弘幸、「下絵装飾と書」、「古筆における伝統と創造 世尊寺家を一例として」、島谷弘幸編『料紙と書 東アジア書道史の世界』、思文閣出版、2014年3月、査読無

高橋裕次、「日本の料紙装飾の技法における受容と発展について」、「古筆における伝統と創造 世尊寺家を一例として」、島谷弘幸編『料紙と書 東アジア書道史の世界』、思文閣出版、2014年3月、査読無

島谷弘幸、「和様の書」、東京国立博物館ほか編集『特別展 和様の書』図録、読売新聞社・NHK・NHK プロモーション発行、2013年7月、9-27頁、査読無

島谷弘幸、「和様の書の魅力」、『聚美』8号、青月社、2013年6月、14-39頁、査読無

島谷弘幸、「書を味わうとはどういうことか」ほか、島谷弘幸監修『もっと知りたい書聖王羲之の世界』、東京美術、2013年1月、査読無

島谷弘幸、「卷子本古今和歌集の魅力と価値」、『国宝 古今和歌集(卷子本)』、公益財団法人大倉文化財団・大倉集古館、2012年8月、38-44頁、査読無
恵美千鶴子(研究協力者)、「田中親美『平家納経模本』 - 益田鈍翁、高橋常庵、松永耳庵の眼 - 」、『MUSEUM』第639号、東京国立博物館、2012年8月、3・23-56頁、査読有

島谷弘幸、「残された書 文化財と日本人のアイデンティティ」、『BIO CITY』50号、ブックエンド、2012年3月、48-55頁、査読無

[学会発表](計 20 件)

島谷弘幸、「陽明文庫所蔵の宸翰について」、陽明文庫講座(招待講演)、於：立命館大学、2013年9月21日

島谷弘幸、「日本の書法」、上海博物館(招待講演)、於：上海博物館、2013年4月20日

島谷弘幸、「残された書」、全日本書道連盟・書道講演会(招待講演)、於：国立新美術館、2012年11月28日

島谷弘幸、「平安朝のみやびと平家納経」、筆の里工房・特別展「よみがえる王朝のみやび」記念フォーラム(招待講演)、於：筆の里工房、2012年9月23日

「書の変遷 その必然性と未来」、大正大学書道カレッジ(招待講演)、於：国立新

美術館、2011年8月6日

[図書](計 3 件)

島谷弘幸編、島谷弘幸・高橋裕次・富田淳他著、『料紙と書 東アジア書道史の世界』、思文閣出版、2014年3月31日

島谷弘幸編、島谷弘幸・富田淳他著、『もっと知りたい書聖王羲之の世界』、東京美術、2013年12月

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島谷 弘幸 (SHIMATANI, hiroyuki)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・副館長
研究者番号：90170935

(2) 研究分担者

神庭 信幸 (KAMBA, nobuyuki)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課・課長
研究者番号：50169801

(3) 研究分担者

高橋 裕次 (TAKAHASHI, yuji)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部博物館情報課・課長
研究者番号：00356271

(4) 研究分担者

富田 淳 (TOMITA, jun)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部列品管理課・課長
研究者番号：20227622

(5) 研究分担者

和田 浩 (WADA, hiroschi)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課環境保存室・室長
研究者番号：60332136

(6) 研究分担者

荒木 臣紀 (ARAKI, ominori)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課・主任研究員
研究者番号：20537344

(7) 研究分担者

赤尾 栄慶 (AKAO, eikei)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博
物館・学芸部・上席研究員
研究者番号：20175764

(8)研究分担者

羽田 聡 (HADA, satoshi)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博
物館・学芸部企画室・主任研究員
研究者番号：30342968